

参集館 竣工祭齋行

昨年五月十八日（土）、参集館竣工祭を齋行しました。祭典には、奉賛会委員、総代、工事関係者等が参列されました。

参集館の屋号を「紡伎廻舎（つむぎのや）」と命名し、神事の後、その扁額の除幕式を行いました。

この扁額は、直径二メートルにもなる栃の木を枝を用い、光成宣雄さん（赤田）にお願いし揮毫いただきました。銘木と達筆の扁額は、これから何十年、何百年も当社の社宝の一つとして、訪れる人々の目に映ることでしょう。ありがとうございました。



吉敷から世界にライブ配信

5/14 に非常事態宣言が解除されましたが、訪れた平安が束の間のものでないことを祈り、音楽と食を献じ神恩に感謝する祭りを5/23(土)に齋行しました。その様子をインターネットで世界に向けてライブ配信しました。

日頃、スポーツ・文化・芸術・飲食・イベントに携わる人たちのお陰で、私たちは豊かな生活を送り、神様の御心和めの奉納を行うことができます。

コロナが蔓延する中、そうした人たちは、無力さを感じながらも、人知れず燃える気持ちを絶やさぬように、再び平穏な日々が訪れると信じて備えてくれています。

この催しは、音楽でアメリカに留学した工藤誠也さん（上東）が、コロナの影響でやむなく一時帰国を強いられ、アメリカの友人たちへ気持ちを届け、音楽を見つめ直すきっかけにしたいとのことから企画が始まりました。その話を聞いた催物に関わる人々が集い、今できることを模索しながら実現されました。

演奏には、マリンバ奏者の川手艶子さんと歌手のたらさちこさんが共演されました。無観客という経験のない本番。ピンと張りつめた空気の中、緊張感溢れる素敵な演奏となりました。

また、演奏前には神恩感謝祭を行い、特別なお供えとしてイソジバーの磯村将文さん（佐畑）がパエリアを、ニシダコーヒーの西田幸誠さん（湯田）が淹れたてのコーヒーを献じました。

今回は、SNSを通じライブ動画を世界に向けて配信するというので、矢野舞台美術の矢野節さん（中尾西）、電気・通信に詳しい河村利夫さん（下東）、林重晴さん（佐畑）などが協力して準備をすめられました。

ライブ配信には海外からの反応もあり、成功を収めることができました。関係者の皆さん本当にお疲れ様でした。

また、写真は松岡往人さん（上東）、福田賢司さん（白石）から提供いただきました。ありがとうございました。



準備の様子



お供えのパエリアとコーヒー



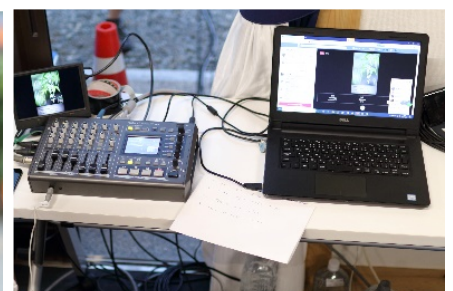
奉納演奏の撮影の様子



神事の様子



固定カメラ



映像調整、配信機材